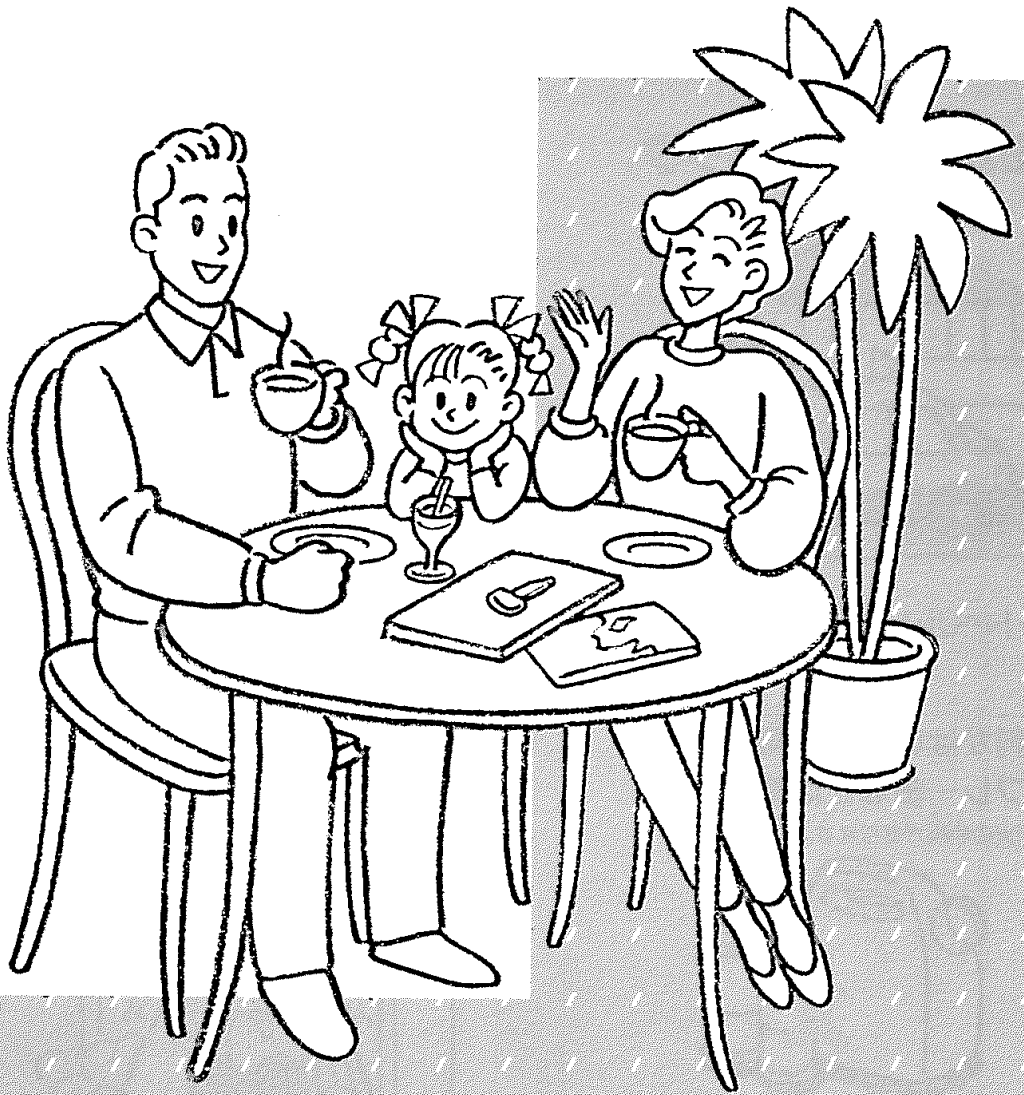
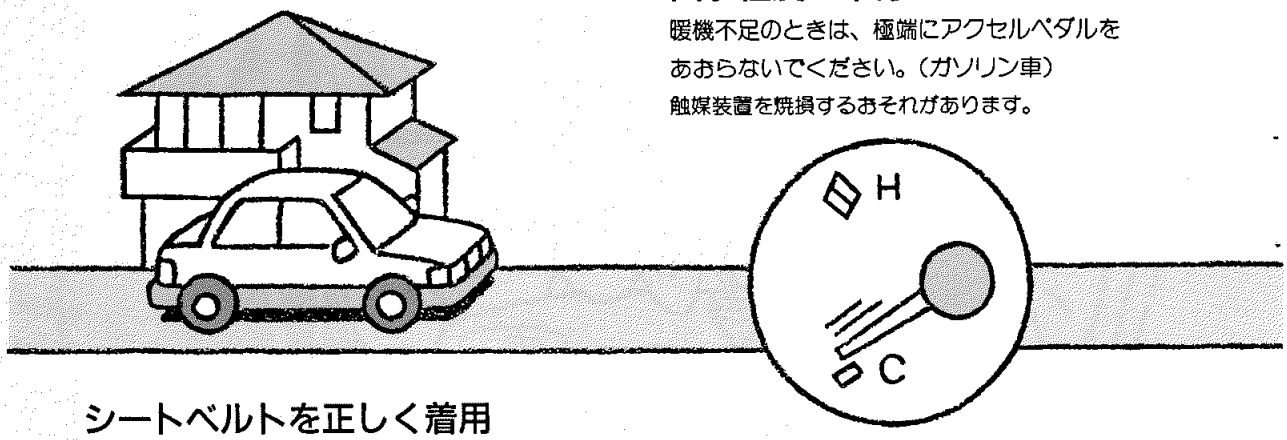
1 必読！これだけは知っておきましょう



お出かけ前のチェック …… 8
お子さまを乗せるときの気くばり …… 9
安全・快適ドライブのために …… 10
走行中、異常に気づいたら …… 11
駐停車するときは …… 12
オートマチック車の正しい運転のしかた …… 13
こんな点にも注意を …… 19
ターボ車の取り扱いチェックポイント …… 20

無断複製禁止

お出かけ前のチェック



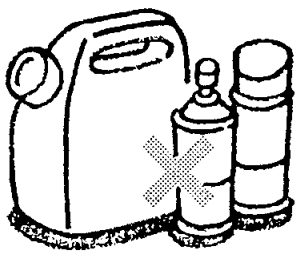
暖機は水温計の指示が動き出す程度で十分

暖機不足のときは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。（ガソリン車）
触媒装置を焼損するおそれがあります。

シートベルトを正しく着用

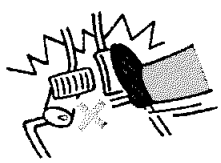
燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まない

●引火の危険があります。



運転席付近に物を置くと危険です

●運転席足元に空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなるなど危険です。



燃料は指定のものを補給

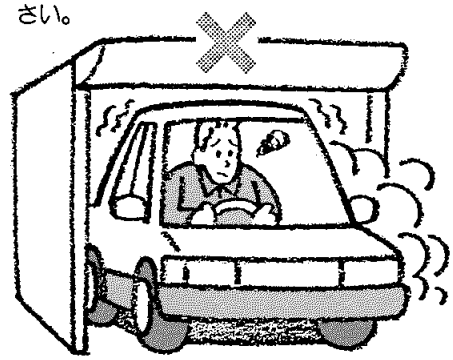
●ガソリン車には無鉛ガソリンを補給
・有鉛ガソリン、粗悪ガソリンは車に悪影響をあたえますので、いれないでください。

●ディーゼル車には軽油を補給

車庫内ではエンジンをかけたままにしない

●ガス中毒の危険があります。

●やむをえない場合は必ず換気を十分してください。



こんなときはトヨタ販売店で点検を

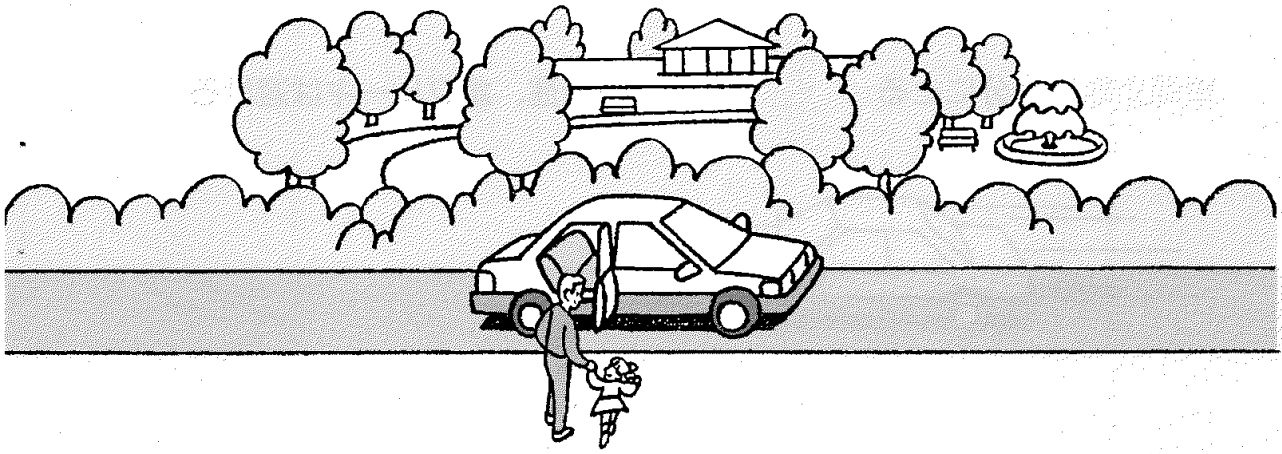
●いつもと違う音や臭いがするとき。

●ブレーキ液が不足しているとき。

●地面に油が漏れたあとが残っているとき。

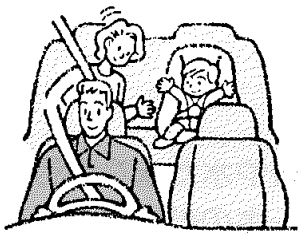
無断複製禁止

お子さまを乗せるときの気くばり



お子さまはリヤシートに

- チャイルドプロテクターをお使いください。（24ページ参照）
- 万一のときリヤシートの方が安全です。また、助手席ではお子さまの動作が気になり安全運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故が起きるおそれがあります。



シートベルトを必ず着用

- ひざの上でお子さまを抱いていても、十分に支えることができません。リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまはジュニアシート、チャイルドシートを使用してください。なお、チャイルドシート、ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

〈選択の目安〉

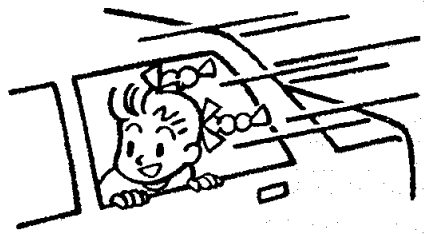
	年　齢	体重（kg）
チャイルドシート	6カ月～4才	7～16
ジュニアシート	4才～10才	15～32

- 助手席に乗せるときも、必ずシートベルトを着用するかチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。

ドア、ウインドゥなどは必ず大人が操作

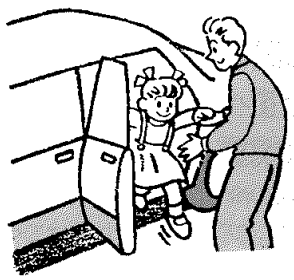
- 手や顔などをはさまないように注意してください。
- ウインドゥロックスイッチもあわせてお使いください。（27ページ参照）

窓などから手や顔を出さない。



車から離れるときは、お子さまを車内に残さない

- 炎天下の車内は高温となり危険です。
- いたずらにより思わぬ事故が起きるおそれがあります。

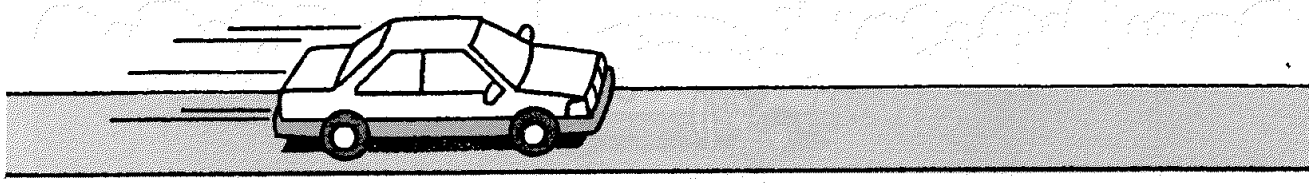


無断複製禁止

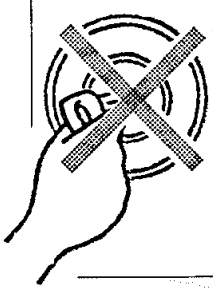
安全・快適ドライブのために

車間距離は十分にとる

急発進、急ブレーキは避ける



走行中はエンジンを切らない



エンジンがかかっていないと
- ブレーキの効きが悪くなる。
- 警告灯が作用しなくなる。
- ハンドルが非常に重くなる。

LOCK位置にすると
- キーが抜けることがあり、ハンドルが切れなくなる。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

- オイル潤滑不良を起こし、ポンプを損傷するおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用

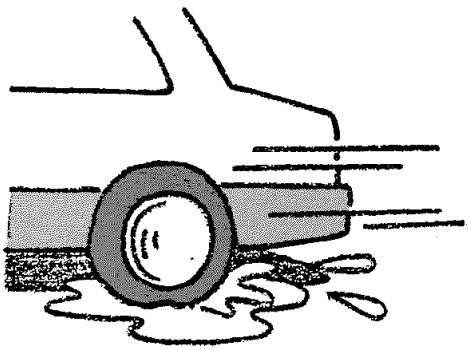
- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなることがあり危険です。エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤにいれるほどよく効きます。

ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面での走行は慎重に

- とくに雨の降りはじめは注意してください。
- 急激なエンジンブレーキは避けてください。

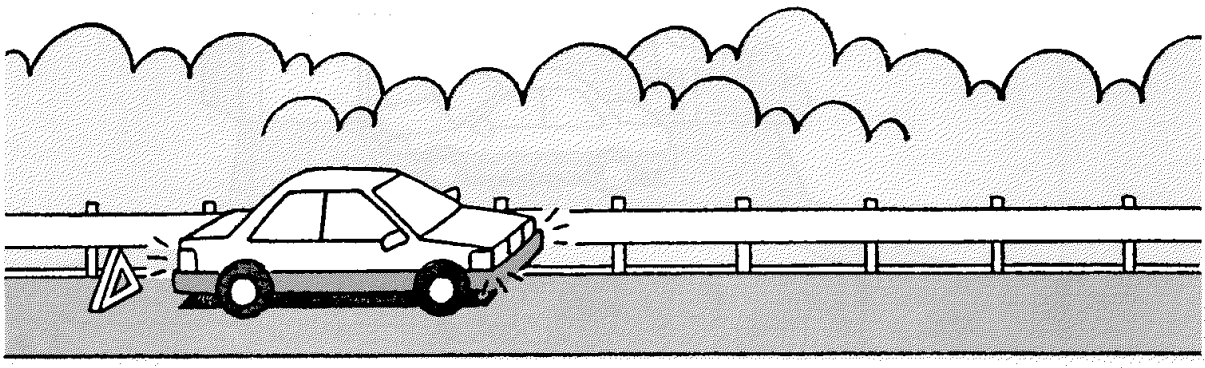
洗車後や水たまり走行後は、ブレーキの効き具合を確認

- ブレーキペダルを軽く踏んで確認します。
- 効きが悪い場合は、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの湿りをかわかしてください。



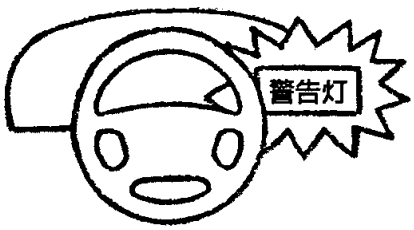
無断複製禁止

走行中、異常に気づいたら



警告灯が点灯したら、安全な場所に停車し、ただちに処置

● 101 ページを参照してください。



走行中にパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応を

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落とします。

●急ブレーキはハンドルをとられることがあり危険です。

アドバイス

次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

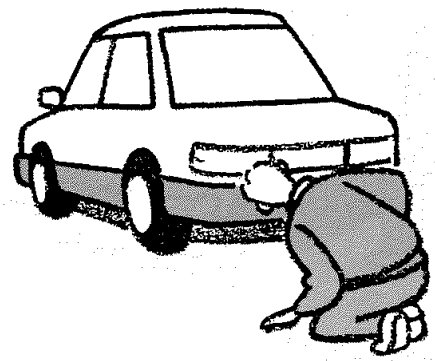
●ハンドルがとられるとき

●異常な振動があるとき

●車両が異常に傾いたとき

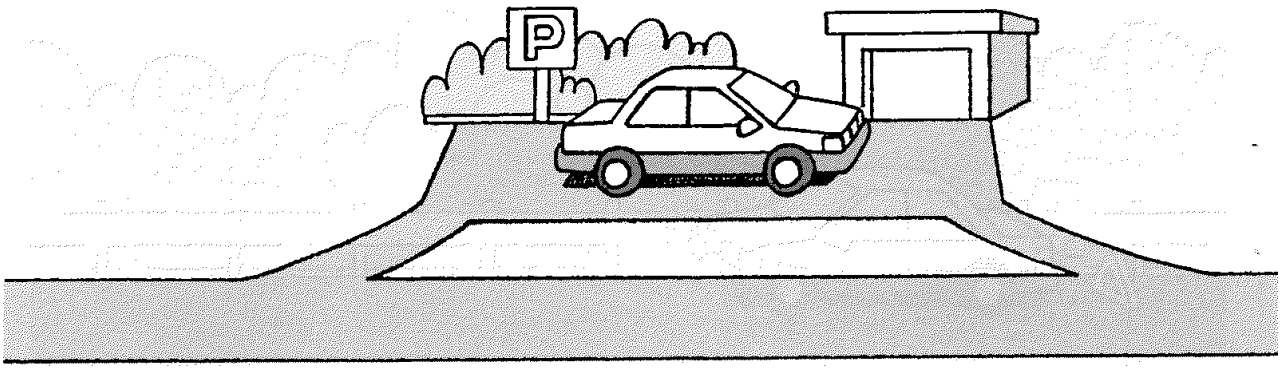
車体床下に強い衝撃を受けたら、下まわりを点検

●すぐ車を止めてブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などがないことを確認してください。



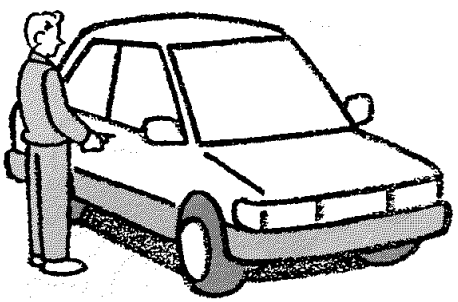
無断複製禁止

駐停車するときは



車から離れるときは、エンジンを止め必ず施錠

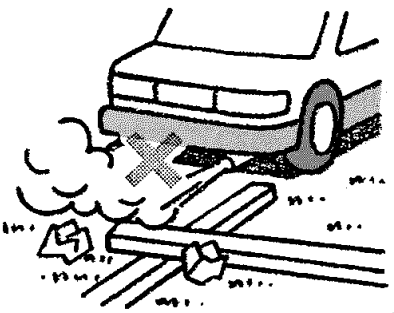
- 車内に貴重品を置いたままにしないでください。



可燃物に注意

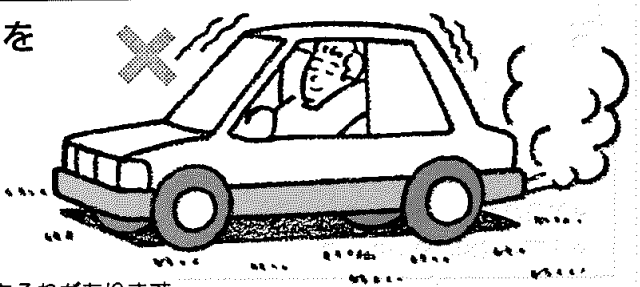
- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがないかを確認してください。

- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行、駐停車しないでください。
  排気管や排気ガスは、エンジンを空ふかししたり、高回転を長く続けたりした場合には高温になることがあり、可燃物があると危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にある場合は、車両後端を30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、万一の場合着火する危険があります。



仮眠するときは、必ずエンジンを止める

- 無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。



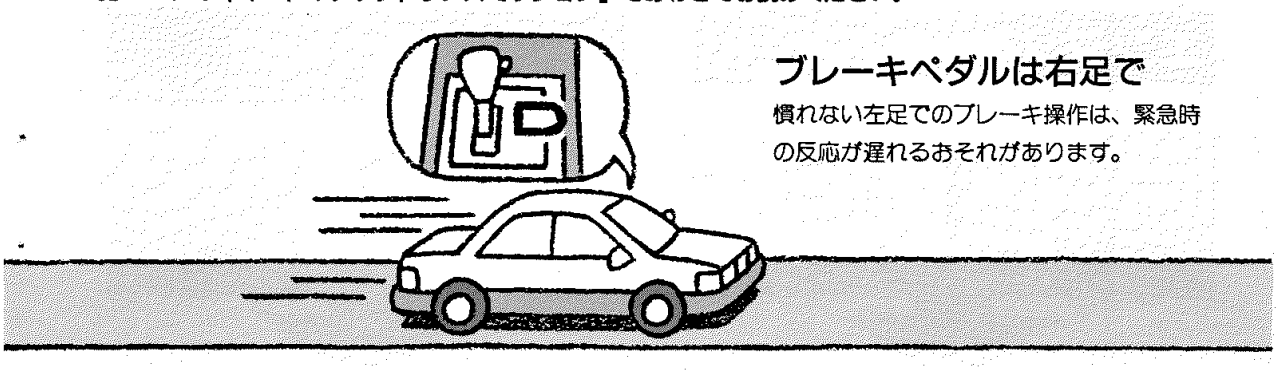
車の移動はエンジンを始動して

- 坂道を利用しての移動は思わぬ事故を起こすおそれがあります。

無断複製禁止

オートマチック車の正しい運転のしかた

52ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。



ブレーキペダルは右足で

慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるおそれがあります。

オートマチック車の特性

■クリープ現象

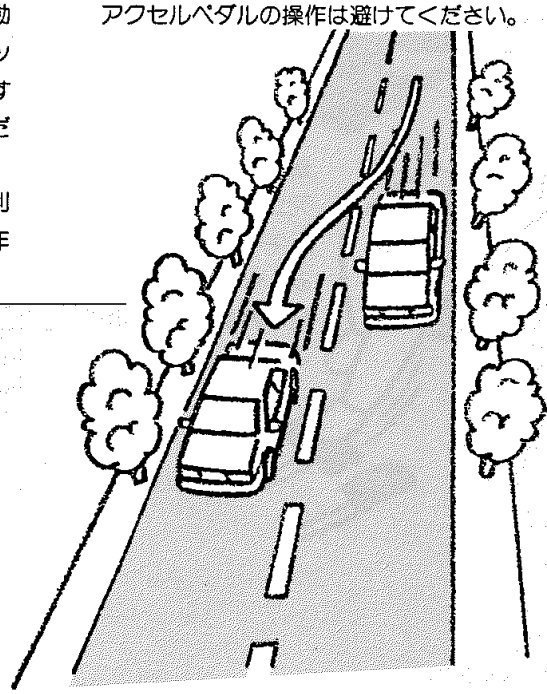
エンジンがかかっているとき、チェンジレバーがⓅⓃ以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をいいます。

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

- 追いこし時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- すべりやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作は避けてください。



無断複製禁止

運転のしかた

エンジンをかけるまえに

1
正しい運転姿勢をとる。

ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

2
アクセルペダルの位置を確認。

3
ブレーキペダルの位置を右足で確認。

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。

エンジン始動

詳しくは51ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

1
パーキングブレーキを確認。

2
Ⓟの位置を目で確認。

Ⓝの位置でも始動できますが、安全のため車輪が固定されるⓅの位置で行ってください。

3
ブレーキペダルを右足で踏む。

4
エンジン始動。

無断複製禁止

発　進

1
ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま。

チェンジレバーをⒹやⓇにいれると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。

エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドルアップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

2
チェンジレバーを前進はⒹ、後退はⓇにいれる。

レバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行ってはいけません。車が急発進し、思わぬ事故の原因につながります。

3
チェンジレバーの位置を目で確認。

4
パーキングブレーキをもどす。

5
ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み加速。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

■急な坂道の発進

チェンジレバーの位置を目で確認したら、
- まずアクセルペダルをゆっくり踏み、
- 車が動き出す感触を確認してから、
- パーキングブレーキをもどし発進。

無断複製禁止

運転のしかた

走　行

通常走行

チェンジレバーをⒹのまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

■上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、**あらかじめ❷にしておく**と、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

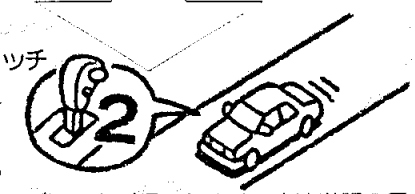
下り坂走行

エンジンブレーキを併用

下り坂をⒹのまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、**フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなる**おそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。

チェンジレバーを❷にいれて、エンジンブレーキを使います。

O／DスイッチをOFFにすることによっても



軽いエンジンブレーキが得られます。高速道路の長い下り坂などで使うと有効です。

急な下り坂

より強いエンジンブレーキが必要な場合はⓁにいれる。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

（単位：km／h）

シフト位置＼エンジン型式	4S−FE	2L−TE
L	65	50
2	110	90

■走行中はⓃにしない

チェンジレバーをⓃにすると、**エンジンブレーキがまったく効かない**ため、思わぬ事故の原因になります。またⓃで走行しても燃費はかわりません。

無断複製禁止

停車

1
Ⓓのままブレーキペダルをしっかり踏んでおく。

エアコンは**温度変化により断続的に作動**します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、**車が後退することがあります。**
ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは、チェンジレバーをⓃにいれる。

■停車中の空ふかしは禁物

万一、ⓅⓃ以外にはいっていると思わぬ急発進の原因になります。

■停車後の再発進

チェンジレバーが**Ⓓの位置にあることをしっかり確認**してから、発進してください。

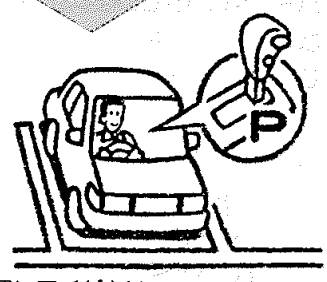
駐車

1
車を完全に止める。

2
ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実にかける。

3
チェンジレバーをⓅにいれる。

Ⓟでは車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジレバーがⓅの位置にあることを確認してください。

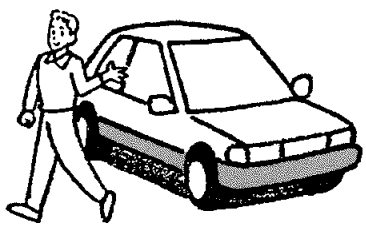


4
エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。
エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジレバーがⓅ以外にはいっていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

無断複製禁止

- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどはⓇにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でⒹのままアクセルをふかしながら止まってはいけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 車輪が完全に止まらないうちに、チェンジレバーをⓅにいれるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



シフトロックシステム

よく理解して正しい操作にお役立てください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でなければⓅからレバー操作できません。

- エンジンスイッチが、ACCまたはLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

Ⓟ以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。

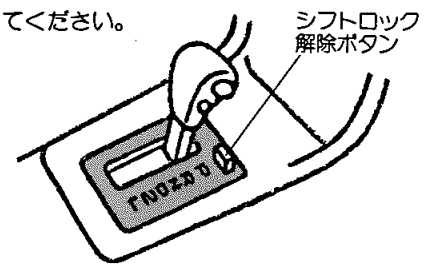
- エンジンスイッチからキーを抜くときは、チェンジレバーをⓅにいれてください。
  (Ⓟ以外ではキーをACCからLOCKにまわせません。)

Ⓡにいれるとブザーが鳴ります。

- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。

万一、Ⓟからレバー操作できないときは

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押すとレバー操作できます。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



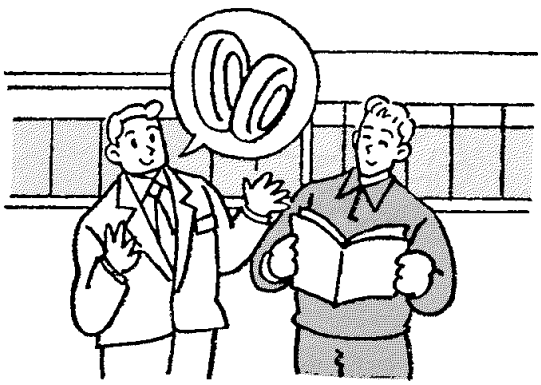
無断複製禁止

こんな点にも注意を

違法改造は絶対にしない

●車の性能や機能に適さない部品を装着すると、思いがけない事故が発生する場合があります。

●トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。



●エアバッグ付き車は、正しく取り扱わないと不意の作動による事故やケガを起こすおそれがありますので、次の項目を厳守してください。
ハンドルの取りはずしや他の車両への取りつけは絶対にしない。

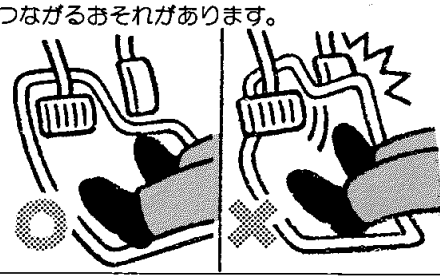
●次のような場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ、ディスクホイールの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、安全走行に悪影響をおよぼすことがあります。

・電装品、無線機などの取りつけ、取りはずし。
故障や火災など思わぬ事故の原因になります。

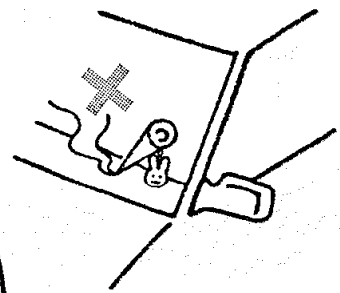
フロアマットは車にあったものを正しく敷く

●フロアマットはアクセルペダルに引っかからないよう、車にあったものを正しく敷いてください。アクセルペダルをおおったり、重ねて敷くとアクセル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



●窓ガラスなどには吸盤をつけないでください。
吸盤がレンズの働きをして、火災など思わぬ事故の原因になります。

無断複製禁止

ターボ車の取り扱いチェックポイント

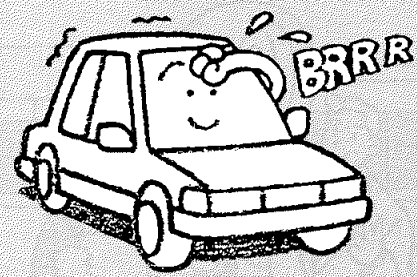
ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

1 高速走行・登坂走行直後エンジンを止めないで！

●必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。

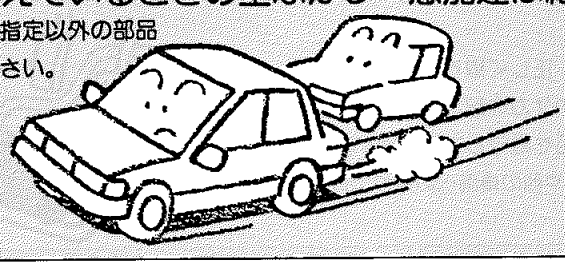
エンジン停止前のアイドル運転時間

運転状況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分



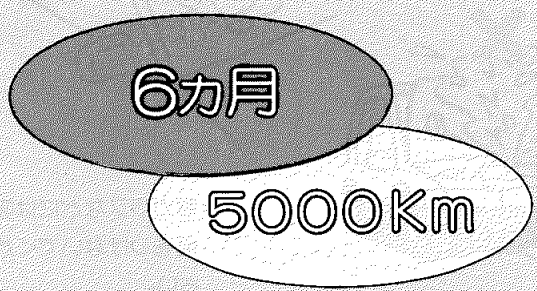
2 エンジンが冷えているときの空ふかし・急加速は絶対ダメ！

●マフラーなどには指定以外の部品を使わないでください。



3 定期的なオイル交換はターボ車の絶対条件！

●エンジンオイルは必ず5,000kmごとに交換(ただし6カ月をこえないこと)してください。



●オイルフィルターは必ず10,000kmごとに交換してください。

アドバイス

ターボ装置は、毎分10数万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルによってなされています。したがって、定められたエンジンオイル、オイルフィルター交換をお守りいただかないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

●エンジンオイルはAPI基準CD相当で粘度分類10W－30以上のオイルを使用してください。
トヨタ純正キャッスル・ディーゼルオイル・ニュースペシャルIIをおすすめします。詳しくは「整備手帳」をご覧ください。

無断複製禁止